



パネルディスカッション

「通訳・翻訳の現実、技術と変革」

15:30-17:00

1. 「通訳の現場」

鶴田 知佳子 氏(東京外国語大学 名誉教授)

2. 「MT時代の翻訳者教育・日本と世界の現状」

阪本 章子 氏(関西大学 教授)

3. 「生成AI時代の機械翻訳:現状と未来」

中澤 敏明 氏(東京大学 特任研究員)

4. ディスカッション

司会:石岡映子(株式会社アスカコーポレーション)

通訳の現場から 15:35-15:55

通訳者・通訳研究者・教育者の立場から



鶴田知佳子

- ・東京外国語大名誉教授
- ・会議通訳者、放送通訳者

アウトライン

1. コロナ禍のなかで現場変容
 - 広島長崎平和式典
 - リモート通訳
 - 東京の中心から地球の各地を結ぶ
 - 世界同時配信のライブイベント
 - 同時字幕のチャレンジ
2. 技術の進歩がもたらす今後の見通し
 - AIはどこまで？ 2025大阪万博に向けての試み
 - 通訳教育でもテクノロジーを活用
3. 会議通訳・放送通訳の現場でおきていること
 - 会議通訳における利用
 - 放送通訳における利用
4. 通訳翻訳研究への影響
5. まとめ 通訳と翻訳の接近

1. コロナ禍のなかで現場の変容

Before

会議通訳

放送通訳

国連関係の会議

After

移動ができなくなり、
ハブでの通訳に

仕切りが作られる
半リモートワークにも

コロナ直後には英語に限られ
逐次通訳で行われる

1. コロナ禍のなかでの現場の変容 —広島長崎平和式典—

広島長崎平和式典



Before

現地に前日入り
前の晩は遅くまで原稿を英訳しな
ければいけない

After



放送センターで遠隔

1. コロナ禍のなかでの現場の変容 —リモート通訳—

GTGS (Global Technology Governance Summit) にて

世界の5つ以上の会場と中継

2人一組体制

10 p.m. – 4 a.m.

- ・時差の問題
- ・通訳者「現場におけるコミュニケーションを成立させる」ための仲立ちをする存在
- ・技術サポートのありがたみ



1 コロナ禍のなかでの世界同時配信のライブイベント —同時字幕のチャレンジ—



JOJO Portal Site より

2021年4月4日

出演者:

興津和幸 杉田智和

小野大輔 小野友樹 小野賢章

同時通訳音声を英語字幕に起こす

- ・AIによる字幕への文字起こし
- ・固有名詞の多さ
- ・通訳者の滑舌

同時通訳者の技術の広がり

- ・音声以外を提供する使い方
- ・通訳と翻訳の接近

2. 技術の進歩がもたらす今後の方向 ①AIはどこまで？

2020年4月

総務省「多言語翻訳技術の高度化に関する研究開発」運営委員就任

- ・2025年大阪万博までにAI同時通訳を目指す
- ・AI通訳はデータとアルゴリズム
 - 日英の同時通訳データを多く蓄積すればするほど質は上がる
 - アルゴリズムも向上している
- ・限られた時間の中で最大の情報量、意味ある情報を伝えること
 - 対象の普段の言動や、国の習慣を踏まえなければならない
 - 真意を把握するために文脈を補う

2. 技術の進歩がもたらす今後の方向

②通訳教育でのテクノロジー活用

2021年6月20日第3回JACI(日本会議通訳者協会)主催同時通訳グランプリにおいて

英日、日英とも出場者はタイトルしか事前に知らされていなかった

学生部門の4名のうち3名はアメリカの
モンレー国際通訳翻訳学院出身

インターネットで運営されるロンドンの
グリンズアカデミー



Middlebury Institute of International Studies at Monterey

3 会議通訳・放送通訳の現場でおきていること AIの活用

①会議通訳における利用

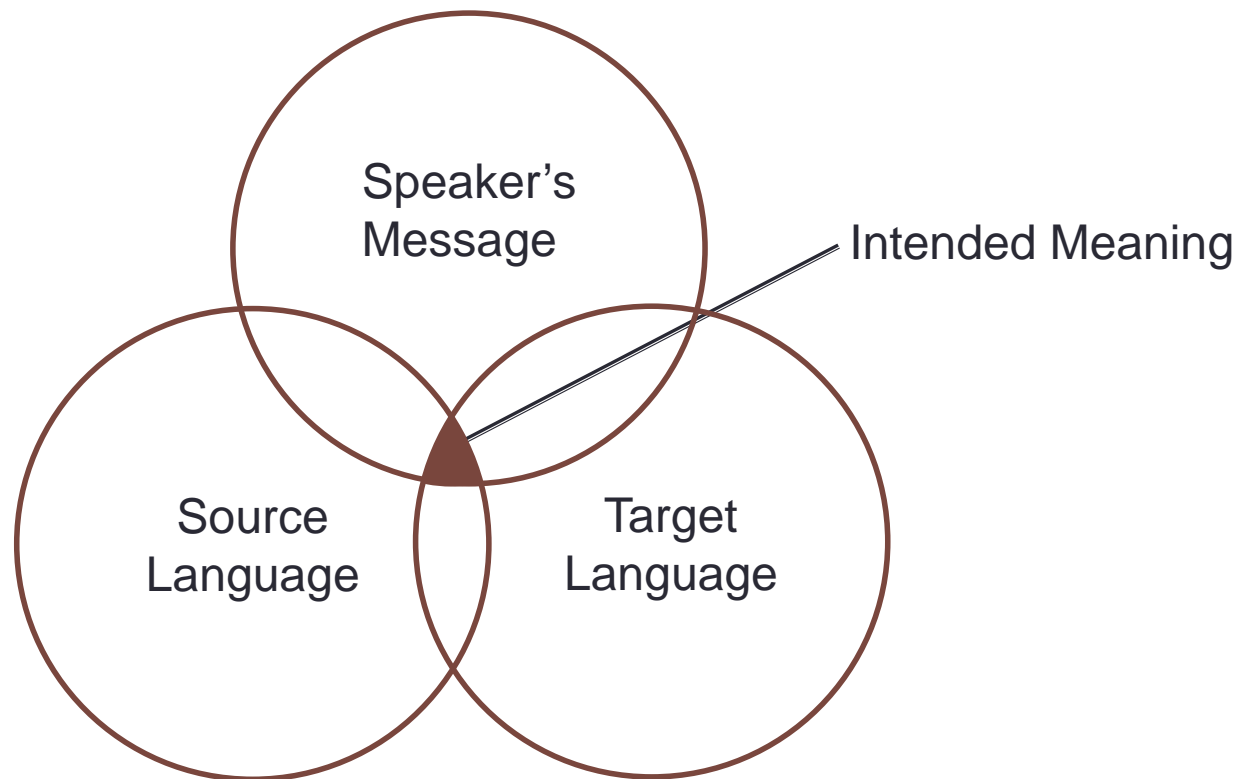
②放送通訳における利用

音声認識 → 訳出 → 音声出力

聴取 意味理解 表現力

抜けがないか 知識が正確か 聞き取りやすいか

通訳の本質とは



3.1 会議通訳におけるAIの利用

IISSシャングリラ・ダイアログ（アジア防衛会議）における利用
シンガポールのシャングリラホテルでの、毎年6月初め開催会議

中国語チームは、ブースの中に自動音声聞き取り装置を置く
表示される英語テキストをみながら、中国語に同時通訳

3.1 会議通訳におけるAIの利用

かつては、鞆が壊れるほどの資料を持って会場へ

いまは、iPadひとつ持っていれば十分

突発的に、会議場に到着してから新たに資料が出た場合でも、写真をとる

あるいはファイルで送付を依頼

機械翻訳にかけて、テキストを参照して通訳する

3.2 放送通訳における利用

- 英日通訳の例 AI翻訳の動画掲載 トラス首相
辞任演説で何を語った？
- <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221021/k10013865871000.html>
- 現在は掲載されていないが、一年以上にわたりAIによる自動翻訳の字幕付動画が掲載されていた
- 開発中のため、翻訳が一部不十分な可能性があります、と記載

3.2 放送通訳における利用 日英

- NHK World-Japan's AI powered Services
- <https://www.nhk.or.jp/str1/english/interbee2022/b3.html>
- NHK WORLD-JAPAN provides the latest news and information about Japan and Asia to the world, including a wide variety of programs and educational content for learning the Japanese language. All services are available in multiple languages with artificial intelligence technology playing a key role in the translations. This section introduces NHK WORLD-JAPAN's use of AI.

3.2 放送通訳における利用 日英

- 災害発生時における同時通訳放送
- 日本語から英語において担当
- 現在は、NHK WORLD JAPANのウェブサイトではリアルタイム英語字幕で総合テレビ放送がみられる
- During times of disasters or emergencies in Japan, live-streaming of our domestic NHK General TV with AI-generated English subtitles will be available on NHK WORLD-JAPAN's website.

3.2 放送における利用 外国語字幕

- NHK WORLD-JAPAN live-streams the latest news and programs with English subtitles around the clock on its website and apps. English subtitles are also automatically translated into multilingual subtitles in real time. Currently, 9 other languages are available: Chinese (Simplified/Traditional), French, Indonesian, Korean, Portuguese, Spanish, Vietnamese, Ukrainian, and Thai.

3. 放送における利用 英語からの翻訳

- Currently, NHK WORLD-JAPAN provides news articles and VOD (video-on-demand) content in 19 languages. Automatic translations have greatly improved efficiency, enabling us to provide translations and subtitles for a wide variety of content by reducing the costs involved with using human translators.
- For news articles and VOD content that will be available online for a fixed period of time, the original English is automatically translated by AI and is then checked for accuracy by experts in each language who make corrections as necessary. This has enabled us to quickly offer accurate multilingual translations and subtitles.

3.2 放送における利用 将来の可能性

- A multilingual automatic reading service using an AI-powered synthetic voice is currently under technical consideration.

In the event of an emergency or disaster, the system could continue to deliver vital information even when multilingual speakers are unavailable. Additional audio services such as podcasts that can be used during commutes or at work are also being considered.

4. 通訳研究・教育への影響

- 通訳研究は、音声で入力して音声で出力する行為についての研究であったが、一部は機械の助けを借りられるようになってきている。そういう環境になったときには、積極的に利用できるように教育を考えていくべき。
- AIによって仕事が減るという側面は、一部あり得るがAIの活用によってより質の高い通訳が出来ることになるのも事実

5. まとめ

- 通訳と翻訳の接近は現場においてみられ、研究・教育にも影響する。
- 今後、通訳と翻訳を分けて考えるよりはともにAIの活用の上での、教育・研究面でもひとつのTranslation Studies を考えるようになるのではないか。